

教育研究評議会（第9回）議事要旨

日時 平成28年9月14日（水） 10:30～11:07
場所 第一会議室
出席者 出口学長、長谷川理事、國分理事、中島理事、中村理事、佐々木副学長、松田副学長、太田副学長、大石副学長、濱田総合教育学系長、川手人文社会科学系長、新田自然科学系長、繁田芸術・スポーツ科学系長、大井評議員、谷部評議員、加賀美評議員、河野評議員、鎌田評議員、國山評議員、加藤評議員、椎野評議員、狩野評議員、山崎評議員
以上23名
陪席者 菊井監事、古川監事

議事に先立ち、学長から以下2点について報告があった。

1. 8月31日（水）に文部科学省の国立大学法人評価委員会によるヒアリングがあった。対象は平成27事業年度及び第2期中期目標期間の取組であったが、全般的に、取組の事実だけではなく、その成果及び数値を示した具体的説明が求められた。委員が当日質問できなかった事項については、後日書面で照会があると聞いているが、特段問題になるような事項はなかったと考えている。
2. 9月13日（火）に文科省で「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議（第1回）」が行われた。国立教員養成大学に対しては、教員採用者数のシェア低下や、自ら考え、学ぶ子どもを育てるための学びの改革及び体制づくりが不十分であること、また教職大学院、修士課程及び博士課程に対する様々な問題の指摘、加えて附属学校については単なる進学校となっておりモデル校としての役割を果たしていない等の指摘がなされている。これらの改革のため、厳しい議論が予想されるが、視点を変えれば、国立教員養成大学、附属学校をいかに守っていくかの議論になるとも考えられる。

I 議 題

- 1 ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学との大学間交流協定締結について
長谷川理事から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、承認した。
- 2 共同研究の受入れについて
松田副学長から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、承認した。
- 3 受託研究の受入れについて
松田副学長から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、承認した。

II 報告事項

- 1 教員選考結果報告について
長谷川理事から、配付資料に基づき報告があった。
- 2 平成29年度大学院教育学研究科入学者選抜試験入学資格審査について
中島理事から、配付資料に基づき報告があった。
- 3 研究員の受入決定について
石橋教育研究支援部長から、配付資料に基づき報告があった。
- 4 寄附金の受入れについて
白敷財務施設部長から、配付資料に基づき報告があった。
- 5 平成28年度第4回東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科委員会報告
大石研究科長から、配付資料に基づき報告があった。

6 その他

松田副学長から、自身が委員となっている「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議（第1回）」について以下のとおり報告があった。

- ・委員の構成は平成25年の「教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議」とほぼ同様であった。また、傍聴者の多さから、本件への関心の高さがうかがえた。
- ・直接会議で議論されたことではないが、教員採用者における国立教員養成大学のシェアの低下から、国立不要論が出ており、国立の存在意義を明確にすることが必要だと感じている。そのために相当の厳しい改革を行わなければならないとの認識を特に文科省は持っている。そういった経緯で設置された会議のため、私や北教大学長の蛇穴委員が発言する際には、「自己反省になってしまうが」との枕詞を付けざるを得ず、発言しにくい雰囲気であった。特に、学芸大へは、各方面からの期待の裏返しとしての強い視線を感じた。
- ・内容については、まず広島大学の山崎委員から、教員需要予測について最新の研究結果の説明があった。従来、25～30年周期で高低の波ができていたが、近年はその波が低くなっており、今後20年程度は下降する見込みであり、また都市部ではピーク時の5～6割まで需要が下がる見込みであるとのことであった。説明の要点としては、量的な観点から議論をするということであろうと受け取った。
- ・初等中等教育局財務課長から、近年の教育改革の方向性について説明があったが、こちらについては、学習指導要領の改訂方法と、それを教える現場の教員の質の問題についての説明であろうと受け取った。
- ・以上のように、教員の質と量の観点から、教員養成における国立大学の役割を議論していくことになるだろう。
- ・スケジュールとしては、月1回程度開催し、来年8月には報告書をまとめる予定である。
- ・情報については随時共有していきたい。

主な質疑応答は以下のとおり（敬称略）。

出 口：教育問題は誰でも議論に参加でき、様々な意見が出ることが難しさであると考えているが、冒頭に述べたような指摘がある中で、てこ入れをするために本会議が立ち上がったものと考えている。

新 田：主査、副主査はどなたになったのか。

松 田：主査が加治佐委員、副主査は松木委員である。

以 上

<配付資料>

- | | |
|-------|--|
| 資 料 1 | ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学（ベトナム）との大学間交流協定締結について |
| 資 料 2 | 共同研究の受入れについて |
| 資 料 3 | 受託研究の受入れについて |
| 資 料 4 | 教員選考結果報告書 |
| 資 料 5 | 平成29年度大学院教育学研究科入学者選抜試験入学資格審査結果報告書 |
| 資 料 6 | 研究員の受入決定について（報告） |
| 資 料 7 | 平成28年度寄附金の受入れについて |
| 資 料 8 | 平成28年度第4回東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科委員会議事日程 |
| 参 考 | 教育研究評議会（平成28年度第8回）議事要旨 |